

第67回(2023年度) 北海道開発技術研究発表会論文

釧路地域におけるサイクルツーリズムの取組 —阿寒・摩周・釧路湿原ルート of 地域ルート検討事例—

釧路開発建設部 道路計画課

○下村 光輝

山崎 勲

釧路開発建設部 特定道路事業対策官

佐藤 孝司

釧路地域には、道東ならではの自然環境を感じることができるサイクルルート「阿寒・摩周・釧路湿原ルート」が存在しており、「くしろサイクルツーリズム推進協議会」が主体となってサイクリスト受入のための取組を行っている。今後、更なるサイクリスト受入のため、地域ルート設定の検討を行っており、本論文では、地域ルートの検討体制や地域ルート設定のための検討内容について取り組み事例を報告する。

キーワード：サイクルツーリズム、地域協働、観光

1. はじめに

「阿寒・摩周・釧路湿原ルート（以下、当ルート）」は釧路空港を起終点として、北側に阿寒摩周国立公園、南側に釧路湿原国立公園を通過する308kmのサイクルルートである。（図-1）釧路管内8市町村の団体で構成される「くしろサイクルツーリズム推進協議会（以下、ルート協議会）」によって設定され、「北海道サイクルルート連携協議会」におけるモデルルートとして位置づけられている。

当ルートは二つの国立公園を有し、変化に富んだローケーションを楽しむことが出来るなど魅力あるサイクルルートであるが、長時間・長距離のサイクリングが必要で、中上級者向けのサイクルルートと言える。当ルート協議会では、回復傾向であるインバウンド、またライト層を含むサイクリスト等、様々なサイクリスト受入のため、今年度地域ルートの設定のための検討を行ってきた。

本稿では、釧路管内での地域ルート検討体制や、地域ルート設定のためのルート協議会の検討内容や地域における地域ルートワークショップ（以下、地域ルートWS）の活動について報告する。

2. 地域ルート検討体制

本章では、当ルートにおける地域ルートの要件等を検討するルート協議会と、地域ルート具体的なルートや受入環境等について検討する地域ルートWSの取組体制について記載する。

(1) ルート協議会の取組体制

北海道のサイクルツーリズム推進方針（以下、推進方針）において、基幹ルートとは、市町村をまたぐような骨格となるサイクルルートで、空港や駅、大都市と目的

地を結び、安全・安心に移動できる基幹的な路線を指し、地域ルートとは基幹ルートから離れているビューポイントなど、隠れた地域資産を楽しめる、比較的短距離のルートを指している。（図-2）



図-1 阿寒・摩周・釧路湿原ルート

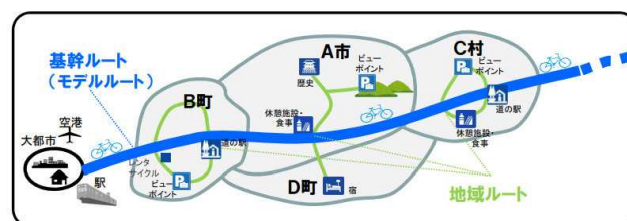


図-2 サイクルルートのイメージ図

推進方針における各ルート協議会は基幹ルートと地域ルートを設定し、質の高いサイクルツーリズム環境を提供することとされている。

当ルート協議会は国内外でのサイクルブームや当ルートがモデルルートに選定されたことを理由に平成30年度にルート協議会の中に運営部会を設置し、サイクリング環境の向上に取り組んできた。しかし近年の釧路管内のサイクリイベント・サイクル事業者の増加、ルート協議会内の取組が具体化してきたことに伴い、今年度から「走行環境部会」、「受入環境部会」、「情報発信部会」の3つの部会体制をとることとした。各部会の役割分担は推進方針に基づき、「走行環境部会」は道路管理者からなり、矢羽根型路面表示の設置や案内看板の設置、道路の補修等を担当する。「受入環境部会については地域のサイクル事業者や観光協会等からなり、当ルートを活用したイベントの実施や受入施設の拡大のための取組を行うことを想定している。「受入環境部会」については観光協会や自治体等からなり、現在は管内のサイクルツーリズム情報を一元化したポータルサイトの作成を進めている。部会体制の取組内容や部会間の連携については、今後取組を進めながら模索していくことになる。当ルート協議会における部会体制は図-3の通り。(図-3)

(2) 地域ルートWSの取組体制

ビューポイントや地域資産を接続するルートを具体的に検討していくに当たって、市町村単位を基本に自治体、道路管理者、観光協会、サイクル事業者等で構成した地域ルートWSを立ち上げて検討を行うこととした。

今年度は、すでに地域のサイクル事業者等で作られたサイクルコースがあり、地域ルート設定のための土壌が整っていた弟子屈町で弟子屈町地域ルートWSを立ち上げ、既存のサイクルコースを元にルートのブラッシュアップや試走会等を行った。(図-4) 弟子屈町地域ルートWSの構成員は自治体、道路管理者、観光協会、サイクリング協会、地域のサイクリイベント事務局からなる。

3. 地域ルートの検討

(1) ルート協議会の検討内容

ルート協議会では、当ルート協議会における地域ルートの設定手順や一般にサイクリング環境を提供できるルートかどうかを確認するための地域ルートの要件を決めることにした。

a) 当ルート協議会における地域ルートの設定手順

当ルート協議会では、地域ルートは自治体等からなる申請者がルート協議会に対して申請を行い、ルート協議会で地域ルートの要件を満たしているかの審査を行い、要件を満たしていることを確認し、問題が無ければ承認し、地域ルートの公表を行う手順とした。

また、申請者は地域の魅力あるルートを設定し、設定後も主体的にサイクルツーリズム環境の向上に努める必要があることから、申請ルートが位置する自治体が主体となり申請することとした。他にも、申請者は地域ルート設定後も協議・検討・議論を行うための地域ルートWS等を設置することとし、道路管理者や観光部局、必要に応じて警察、鉄道会社、バス会社、観光協会等が含まれていることを条件とした。

b) 地域ルートの審査

地域ルートの審査では、推進方針やナショナルサイクルルートの指定要件に準じて、地域ルートに求める水準を定めた。地域ルートの審査については、走行環境、受入環境、情報発信の視点で各部会が行うこととした。

また、走行環境や受入環境を確認するために試走会を行うことや、サイクリング協会等に登録されたサイクリング経験者やサイクリングガイドの有資格者、ルート協議会が認めるサイクリング経験者の指導・監修されたル

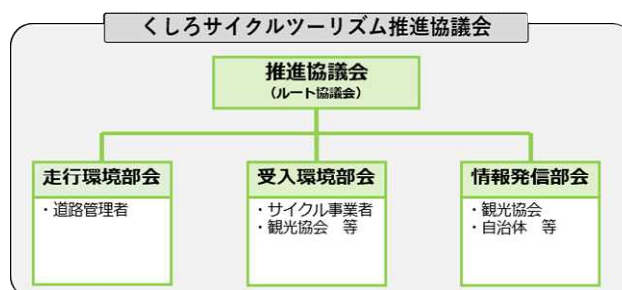


図-3 ルート協議会の部会体制

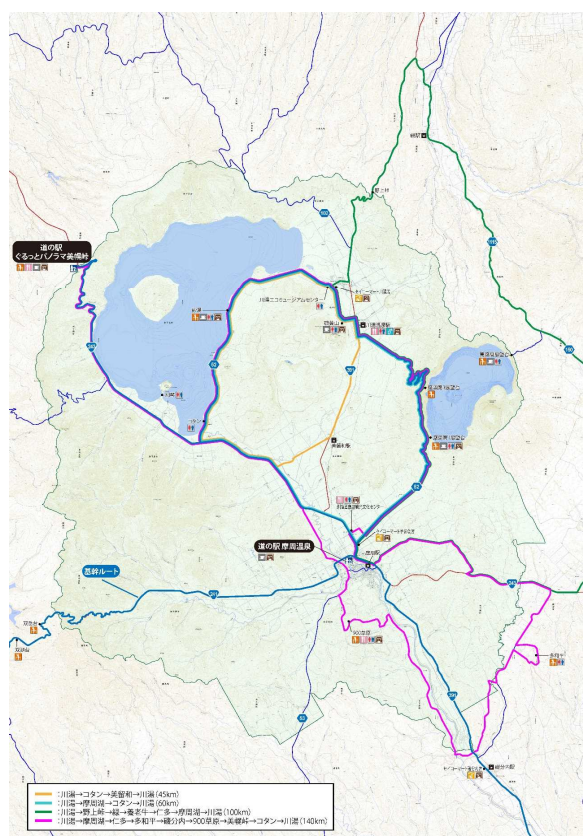


図-4 既存コースの抽出

ートであること等を地域ルートの要件として決めた。

(2) 弟子屈町地域ルートWSの検討内容

弟子屈町地域ルートWSでは地域ルート検討に当たり、机上にてルートの検討を行うワークショップ（以下、WS）と検討したルートを実際に走行確認する試走会を行った。

WSは令和5年1月に第1回目を開催し、令和5年10月までに第4回目を開催しルートの検討を行った。WSの中ではサイクリング協会、地域のサイクルイベント事務局等の意見を踏まえながら、地域のおすすめスポットやおすすめのサイクルコースを抽出しつつルートの検討が行われた。（図-5）

また、試走会の実施に向けて、スケジュールや立寄箇所の設定、エイド食や昼食等の手配の調整、レンタサイクルの調達等を行った。

(3) 道東ブロックサイクルルート試走会

試走会については、くしろサイクルツーリズム推進協議会、弟子屈町地域ルートWS、釧路開発建設部が主体となり、北海道TOKACHIサイクルツーリズムルート協議会とオホーツクルート協議会、帯広開発建設部と網走開発建設部から参加者を募集し、道東ブロックサイクルルート試走会（阿寒・摩周・釧路湿原ルート 弟子屈町地域ルート試走会）として、令和5年11月6日、7日の2日間で実施した。1日目は弟子屈町地域ルートWSにて検討したルートの試走会、2日目は試走で感じたルートに対する意見交換や、ルート協議会毎の情報交換等を行った。試走会、意見交換会は合わせて31名が参加した。

a) 試走会

1日目の試走会については事前に弟子屈町地域ルートWSで検討していたルートを元に川湯ビジターセンターを11時45分に出発、硫黄山、摩周湖の伏流水、和琴、砂湯を回り、川湯ビジターセンターに16時に戻ってくるルートを試走した。（図-6）

走行延長は45.5kmで走行時は事前に聞き取ったサイクリング歴等から2班に分けて走行した。走行の際は1班につき3名先導、中間、最終にサイクルスタッフを配置し、ルートの先導や走行者のサポートを行った。また、サイクリング途中の立寄箇所では弟子屈町地域ルートWSから弟子屈町のお菓子をエイド食として提供した。

b) 試走会のアンケート結果

1日目のルート試走時にはアンケートを取っており、回答者は19名、その内サイクリング歴が0年の方が8名、1～5年が3名、6年以上が8名であった。（図-7）参加者が普段乗っている自転車のタイプとしてはロードバイクが一番多く9名であった。（図-8）

また、参加者のサイクリングをする普段の目的としては健康づくりが一番多く9名、自然景観、サイクリング自体が目的が7名、続いて都市観光地めぐりを目的とする

るのが5名だった。（図-9）

試走で良かったと思う点・改善点の自由記述では、景観が良く、アップダウンが少ないため初心者でも走れたといった意見がサイクリング歴0年の方から2件あった。ただ、別のサイクリング歴0年の方からは初心者には長く、もう少し短いルートでE-BIKEならちょうど良いといった意見もあった。また、立寄箇所ではただ休憩するだけでなく地域ガイド等による説明があったら良かったといった意見が2件あった。その他、受入環境について、トイレが出来ない区間長くが不安といった意見や、立ち寄りスポットの説明があると良い、等の意見があった。

続いて、また、弟子屈町地域ルートをサイクリングしたいと思うかといった質問では、とても思うが11件、思うが5件、どちらとも言えない、あまり思わないが1件ずつであった。（図-10）

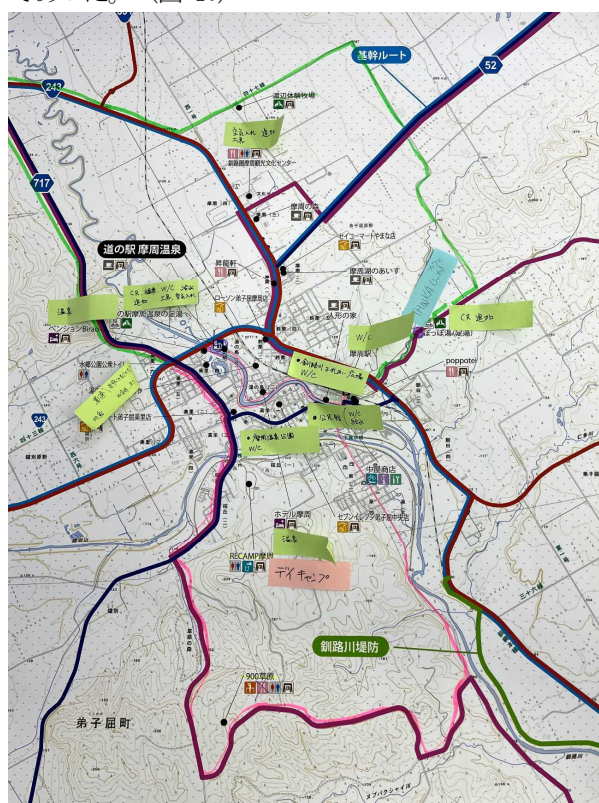


図-5 地域ルートの検討状況



図-6 当日の試走ルート

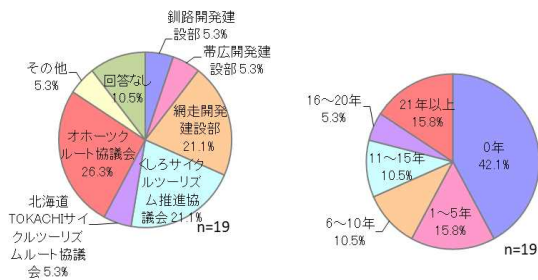


図-7 所属 (左) 、サイクリング歴 (右)

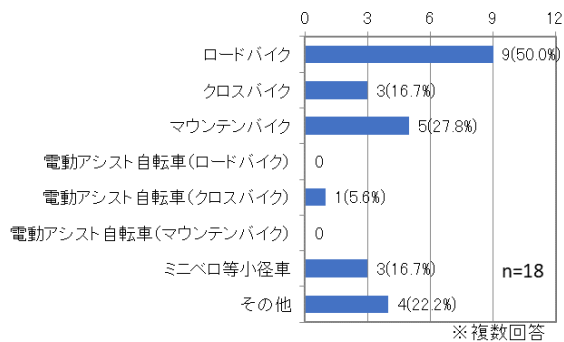


図-8 普段載っている自転車のタイプ

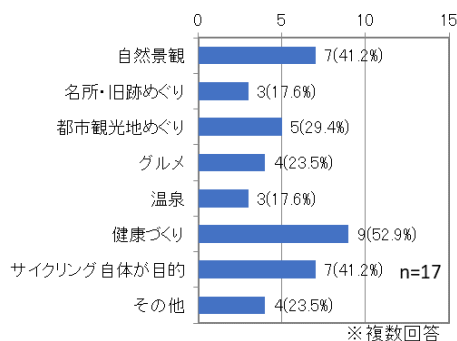


図-9 サイクリングをする普段の目的

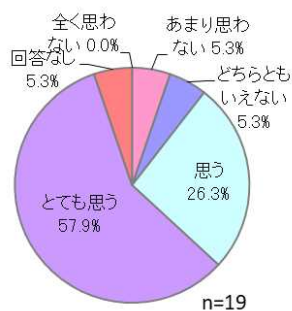


図-10 また、弟子屈町地域ルートをサイクリングしたいと思うか

回答理由について、とても思う、思うと回答した方は自然景観、グルメやアクティビティを理由に再度弟子屈町をサイクリングで訪れたいといった意見が多数であった。あまり思わないと回答した方はルートが初心者にはきつかったといった理由であった。

SHIMOMURA Kouki, YAMAZAKI Isao, SATO Koji

今後弟子屈町地域ルートがよりサイクリングしたいと思うために必要なこととはという質問については、グルメやアクティビティ情報を含めたサイクルマップ等の作成に関する意見が4件、道路の補修等に関する意見が2件、他にはサイクルラックの設置位置に関する意見が2件あった。

c) 意見交換会

弟子屈町地域ルートに関する意見交換会では、帯広や網走の方々からは次のような意見があった。セルフガイドで当ルートを楽しんで貰う場合は事前に地域の歴史や知識を頭に入れてもらってからサイクリングしてもらうのが良い。例えば摩周湖、屈斜路湖がどのように出来たのか等を事前に知ってもらえると良いと思う。また、ルート設定に当たってはテーマや物語をもって設定をするのが良いといった意見があった。ガイド付きの場合は他の地域から来た方がどのようなことに興味を持つか考えると良いといった意見があった。例えば、摩周湖の伏流水に立ち寄った際は、観光看板を見るだけでなく、ガイドによる説明をしたり、実際に伏流水を飲んでみたり体験をしてもらえると良いと意見があった。

その他、ルート協議会毎の取組に関する情報交換や道東ブロックで今後も連携した取組についての意見交換を行った。

4. 今後の取組について

a) ルート協議会の取組

今年度ルート協議会では協議会の部会体制の変更や、当ルートにおける地域ルートの決定手順や審査項目等についての検討を行ってきた。今後は検討した決定手順や審査項目に則り地域ルートの審査や承認、公表まで進めて行きたいと考えている。地域ルートの公表後は道東ブロックサイクルルート試走会でも意見があったとおり、食事場所や立寄場所を盛り込んだ地域ルートマップの作成等を進めて行きたいと考えている。

b) 弟子屈町地域ルートWSの取組

弟子屈町地域ルートWSでは試走会の実施結果を踏まえて、ルート位置の見直しや、サイクルラック設置位置の変更など改善できる点を進めて行きたいと考えている。また、地域ルートの公表後もルート協議会と連携して地域ルートマップの作成等、サイクルツーリズム環境の維持・向上に向けた取組に努めていきたいと考えている。

5. さいごに

以上、阿寒・摩周・釧路湿原ルートの地域ルート設定に向けた取組をルート協議会、弟子屈町地域ルートWSの視点から報告した。

釧路地域全体の今後の取組としては、地域ルートの検討が進んでいない地域での地域ルートWSの立ち上げや、

地域でサイクルガイドを行えるガイドの育成などを進めて行きたいと考えている。

また、道東ブロックサイクルルート試走会では、今後も道東地域間で連携したサイクルイベントや意見交換を行って行きたいといった話も出ており、継続して道東地域間で連携した取組を行って行きたい。